

家の片付け、住みやすく

終活を考える

終活と聞くと葬儀や墓の準備を思い浮かべる人は多いが、実は最も大変なのは親が住み続けた家の中にある荷物の整理や空き家になった家自体の片付けだ。近年、こうした作業は「家じまい」などと呼ばれ、注目が高まっている。重要なのは、親は家族の負担を考えて生前整理で荷物を減らしておくこと。そして家を引き継いだ子らはどうするか早めに決め、利用したり処分したりすることだ。

生前整理で相続に備え

「家の中の片付けは軽く考えない方がいい。2年や3年では終わらないケースもよくある」と話すのは遺品整理や生前整理を手掛けるリリーフ(兵庫県西宮市)の赤沢知宣社長。親の死後、子ら家族の手に負えず、空き家に放置されることも珍しくない。

SBI いきいき少額短期保険(東京・港)が実施したアンケートでは終活で心配なこと、気になっていることのトップは「物の整理、片付け」だった。親が長く住んだ家はものをため込んでいくケースが多い。家じまいの一環として、室内を片付けて住みやすくする「生前整理」をする人が増えている。

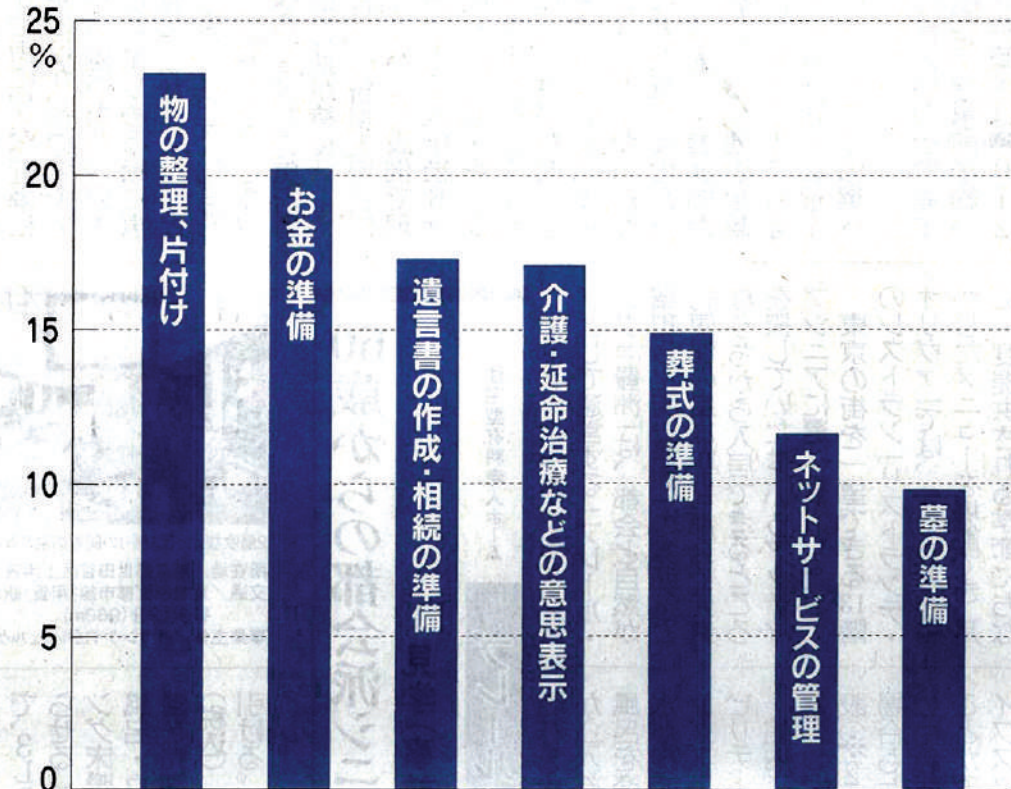
生前整理は家族のためと考える人は多いが、実は暮らす本人のためでもある。家にものがあふれていると、つまりすいて転倒するリスクが高まるからだ。東京消防庁の救急搬送データ(21年)によると、65歳以上の事故の発生場所は「住宅等居住場所」、つまり住み慣れた家が3分の2を占める。

た。事故の種類は「ころぶ」が最も多く、その4割が入院を要する重症だった。地震でもものが落ちたり、倒れたりしてケガをすることも。実家の片づけ講座や掃除サービスを提供する実家片づけ整理協会代表理事の渡部亜矢さんは「防災上のメリットもあり、寿命が延びる」と言う。将来の介護もテーマだ。在宅で介護をするなら介護用ベッドなどのスペースが必要になる。ケアマネジャーや介護士など出入りする人も増える。荷物を減らせば在宅介護も進めやすくなる。

親が亡くなった後にまとめて片付けられたいと考える人もいる。ただ手間がかかるし、精神的につらい作業になることもある。費用も残された家族が全部を負う。「親が元気なうちにするのが経済的にも体力的にも精神的にもよい。健康寿命(男性72・68歳、女性75・38歳)までにやっておきたい」(渡部さん)。

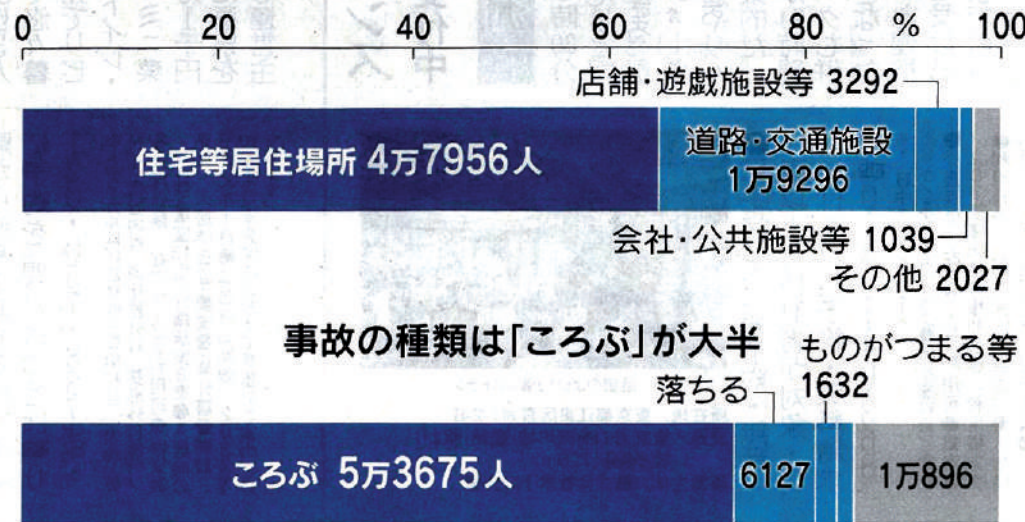
作業ではどれを捨ててどれを捨てないか、すぐに決められないこともある。そんなときのために一時的に保管する箱を用意するとよい。保管後に使わなければ処分する。大事なものは片付けを子ら家族に伝え、できれば一緒に取り組むことだ。その際、子らは家の権利関係の書類など重要品の保管場所を確認したい。必要

終活で心配なことのトップは「物の整理、片付け」

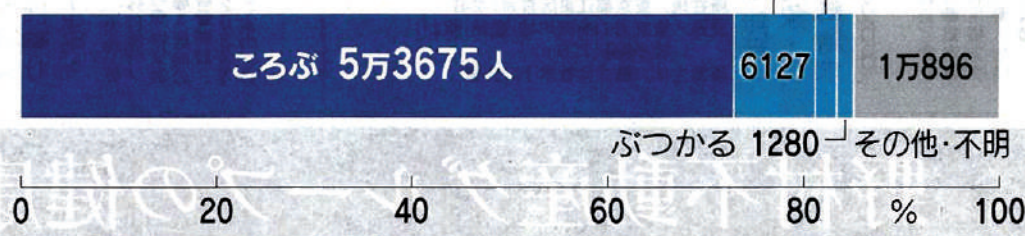


(注)SBI いきいき少額短期保険「終活」に関する調査(2021年)を基に作成、複数回答

高齢者の事故は住み慣れた「自宅」で起きる

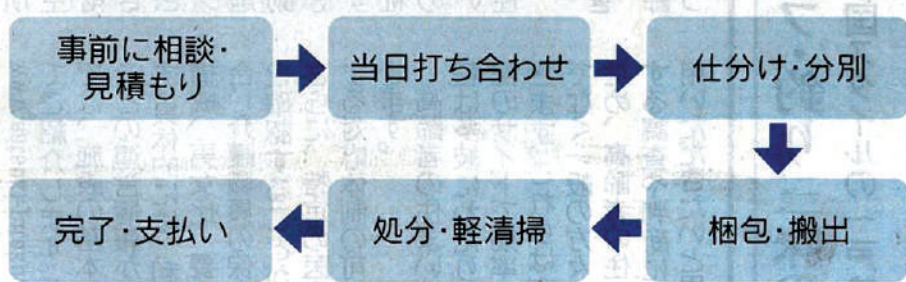


事故の種類は「ころぶ」が大半



(注)東京消防庁「2021年 救急搬送データから見る日常生活事故の実態」を基に作成

家の中の片付けの流れと費用の例

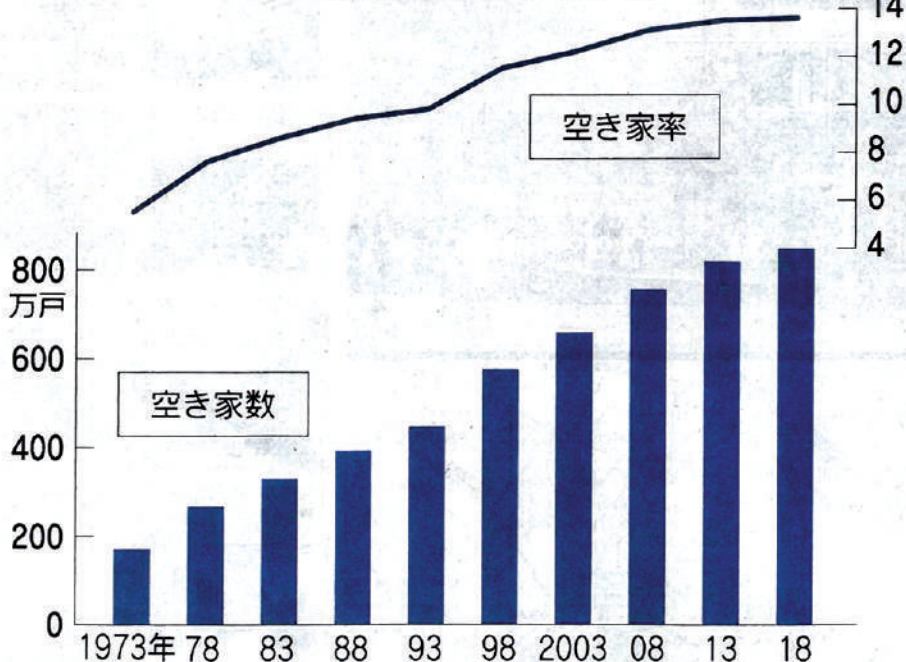


費用の目安

広さ	作業員の人数	料金
1DK	2人	6万6000円～
1LDK	3人	8万8000円～
2DK	3人	13万2000円～
2LDK	4人	16万5000円～
3DK	5人	19万8000円～
3LDK	6人	22万円～

(注)リリーフの場合。費用は荷物の量などで変わる

空き家は増え続けている



(注)総務省「住宅・土地統計調査」を基に作成

し、相続の備えにもなる。片付けは専門の業者に頼むこともできる。費用は業者によって異なるが、前述のリリーフでは1LDKで8万8000円から2LDKで16万5000円からが目安となる。生前整理は10万円台、遺品整理は20万円台が多い」と赤沢社長は話す。複数から見

解体する。併せて家の中のものも。使用予定がなければ売った方がよいとの指摘もある。その際は更地の方が高く売れる傾向がある。すぐに家を取り壊すと固定資産税が余分にかかるので買い手が現れた後で解体する。併せて家の中のもの

解体する。併せて家の中のものも。使用予定がなければ売った方がよいとの指摘もある。その際は更地の方が高く売れる傾向がある。すぐに家を取り壊すと固定資産税が余分にかかるので買い手が現れた後で解体する。併せて家の中のもの

解体する。併せて家の中のものも。使用予定がなければ売った方がよいとの指摘もある。その際は更地の方が高く売れる傾向がある。すぐに家を取り壊すと固定資産税が余分にかかるので買い手が現れた後で解体する。併せて家の中のもの

自分の「死後」も自身で管理

50代のシングル女性を取材したときのこと。喫茶店に現れた女性が背負うリュックは自分の死を知らせてほしい人のリスト、財産目録、寄付先を記した遺言書、死後の手続きを業者に託した書類などで膨らんでいました。大病を患ったのを機に終活を始めたそうです。「ひとりでどう人生の始末をつけるかを決めたら、解放感を味わえた」という言葉が印象に残っています。

生涯未婚、生涯子どもを持たない人が増えています。自分の「死後」も自身でマネジメントしたいという価値観は、今後さらに広がっていくのではないかと考えています。(マネー報道グループ長 手塚愛実)

積もりをとり比べて比較し、信頼できる業者を選びたい。

家じまいは親の死後など家族が家本体の処分をすること

もいう。そこに住まないなら

誰かに貸したいと考える人は

多い。ただ大都市圏はともか

く、地方だと借り手はなかなか

見つからない。物置代わり

に使う手もあるが、維持費と

毎年の固定資産税がかかる。

使う予定がなければ売った

方がよいとの指摘もある。そ

の際は更地の方が高く売れる

傾向がある。すぐに家を取り

壊すと固定資産税が余分にか

かるので買い手が現れた後で

解体する。併せて家の中のも

のも一通り処分する必要がある。こうした手間や費用がかかることも知っておきたい。

実際には首都圏で交通の便

がよいといった一部を除き、

売却は難しいとされる。空き

家増加の一因となっており、

18年10月時点の住宅・土地統

計調査では国内の住宅総数の

13.6%を占めた。需要があり

そうなら、コストをかけてで

も引き渡せるようにしておき

たい。「多少損が出て、それ

を受け入れるのが空き家を処

分するポイント」と空家・空地

管理センター代表理事の上田

真一さんは指摘する。

(土井誠司)